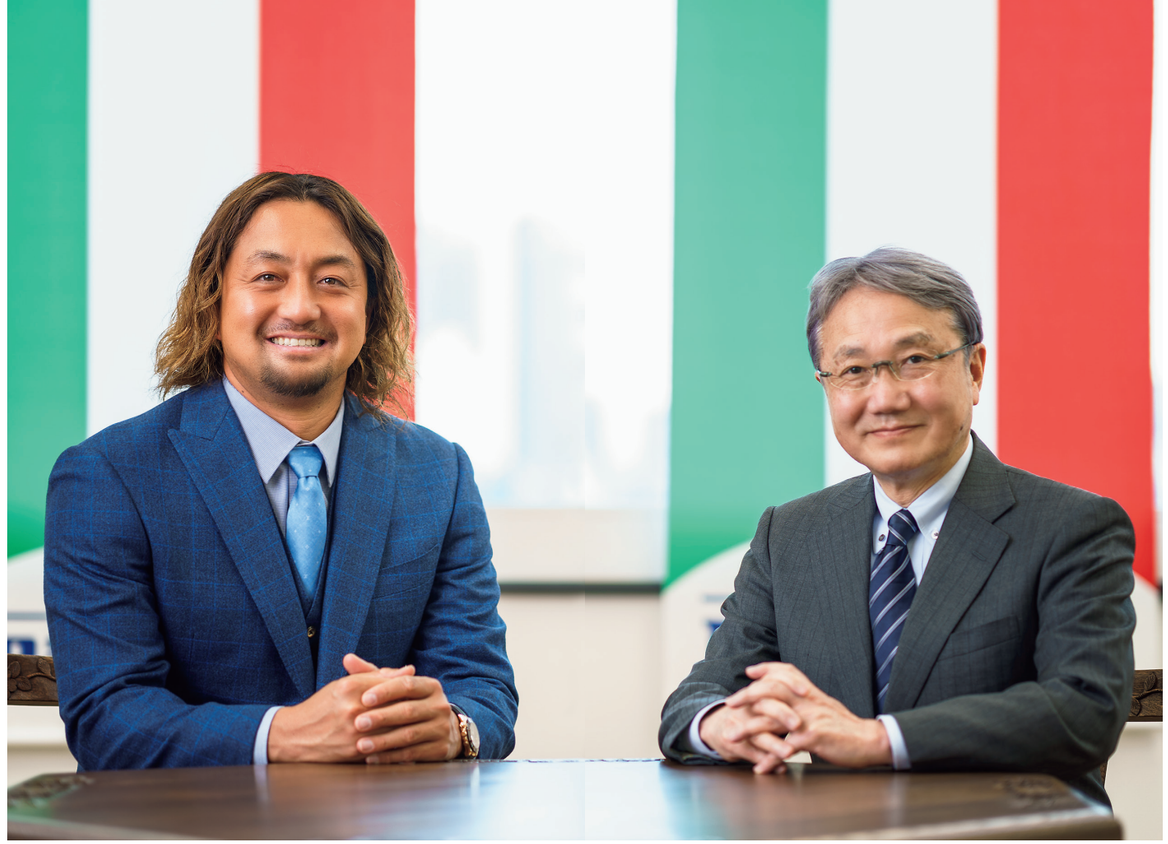
［スペシャル対談］

「新型コロナからスポーツ文化を守る」

昨シーズン、新型コロナウイルスの蔓延によって、様々な影響を受けた野球界。日本から海を渡り、メジャーリーグに挑戦した澤村拓一。NPBとJリーグが連携する「新型コロナウイルス対策連絡会議」で専門家チームの一員としてガイドラインの作成に関わった舘田一博教授。日米の球界で新型コロナウイルス対策と向き合った2人が語り合った。

福田剛＝文
text by Tsuyoshi Fukuda
三宅史郎＝写真
photograph by Shiro Miyake



Kazuhiro Tateda

東邦大学医学部・教授

舘田一博

1960年、神奈川県生まれ。'85年、長崎大学医学部卒業後、長崎大学医学部第二内科に入局。'90年、東邦大学医学部微生物学教室助手。2005年、東邦大学医学部微生物・感染症学講座准教授、'11年に同講座教授に就任し、日本感染症学会理事・日本臨床微生物学会理事・日本化学療法学会理事・日本環境感染学会理事などを歴任。'20年、感染症対策の専門家としてNPB・Jリーグ「新型コロナウイルス対策連絡会議」に参加する

Hirokazu Sawamura

ボストン・レッドソックス

澤村拓一

1988年、栃木県生まれ。佐野日大高から中央大を経て、2010年ドラフト1位で巨人入団。1年目から先発ローテーション入りし、11勝を挙げて新人王を獲得。'15年は抑えとして起用され36セーブを挙げると、翌'16年には37セーブを挙げ、自身初のセーブ王を獲得する。'20年9月にロッテへ移籍。同年オフに海外FA権を行使してレッドソックス入団。55試合に登板し、5勝1敗10ホールド、防御率3.06。チームのポストシーズン進出に貢献した

舘田　本当に1年間お疲れさまでした。野球以外のところでも様々なプレッシャーがかかる中、大変なご苦労をされたと思います。今日はMLBの感染対策についていろいろと聞きたいと思っています。MLBではどんな対策をしていましたか？

澤村　チームでルールを決めるというよりはMLB機構がすべて管理していました。シーズン前のキャンプでは外食が禁止されていましたし、シーズンが始まってもMLBの担当者がロッカールームにいて、シャワーを浴びたばかりでもすぐに「マスクしろ」って注意されます。最近はサウナにハマっていて遠征先のホテルで入りたいと思っても、それも禁止されていました。選手だけでなく、監督やコーチ、裏方のスタッフを含めてチーム全体のワクチン接種率が85％を越えるとサウナもOKなんですけど、レッドソックスは越えなかったので制限が続いていました。MLB30チームの中で85％を越えたのはおそらく12、13チームくらいしかないと思います。

舘田　ワクチンを接種しない人もいるんですね。それでも「なんで打たないんだ」と責められることはないんでしょ？

澤村　そうですね。みんな人のことは気にしないので、そのことで文句を言ったりということは全くないですね。

舘田　ワクチンを打たない権利も認めるというのが自由を重んじるアメリカならではですよね。観客はどうだったんでしょう？　テレビで見ていると早い段階でスタジアムが満員になっていましたね。

澤村　テキサス州はアメリカの中でもワクチン接種が早かったので開幕戦から入場制限無しでした。他のチームが入場制限を無くしたのは6月くらいからですね。レッドソックスも開幕当初は入場制限をしていましたが、3万7000人収容のフェンウェイパークに1万5000人は入っていたので、ガラガラという感じではなかったんですけど、やっぱり満員になったときの熱気はすごかったですね。アメリカのスタジアムは音楽がずっと流れていて、ヤンキース戦ともなると、観客が大声を上げてずっと踊っているんです。自分も投げていてモチベーションが上がりました。ただ観客はほとんどマスクを着けていなかったです。

舘田　NPBは9チームが上限1万人、その他は収容定員の50％以内で開幕を迎え、感染状況の悪化で5000人という試合もありましたが、シーズン終盤にはほとんどの球団が収容定員の50％以内まで増やすことができました。新型コロナウイルス対策連絡会議は、斉藤惇コミッショナーの「日本のスポーツ文化を守るために、選手を守り、チームを守り、観客を守りたいんだ」という言葉からスタートしています。そのためにアメリカと比べて基準を厳しく設定してきました。ただもう日本全体でワクチンの2回接種率は約80％に達していますし、日本人はちゃんとマスクを着けるので、声を出さない応援であれば飛沫感染のリスクを抑えることができます。実証実験でデータをとって安全性が確認できたら今シーズンは入場制限をなくしたいですね。いつまでも続けているとチームの経営が成り立たなくなり、逆に日本のスポーツ文化を守ることができなくなりますからね。

澤村　ぜひ、そうして欲しいですね。満員の方が選手もプレーに力が入りますから。

怪我なくシーズンを乗り切るために睡眠にもこだわる。

舘田　野球の面では日本とアメリカで何か違いはありましたか？

澤村　プレーよりも、選手のタフさに驚きました。国内でも時差があるのと、移動がとにかく大変。西海岸だと6時間かかるので、僕と通訳はひたすら寝ています。でも、向こうの選手は寝ない。スピーカーを持ち込んで大音量でガンガン音楽を流しながらずっとトランプしたり……。それでも試合になると普通にプレーしています。

舘田　それはすごい！　その違いはどこにあるんでしょうか？

澤村　トレーニングの違いが大きいと思います。日本はすごく走る。試合前には必ず外野を走っている選手がいるんですが、メジャーでは一人もいない。その代わりウエイトトレーニングルームにみんないます。とにかく身体能力が高いですね。ホームラン王になったゲレーロJr.なんて足がめちゃくちゃ速くて、内野ゴロを打って走る姿を見るとビックリしますよ。

舘田　世界トップクラスの選手達と戦うのはやはり大変ですね。昨シーズンの成績はご自身ではどう感じていますか？

澤村　怪我なく1年を乗り切れたことに、満足しています。そのためにトレーナーさんを日本から呼び、10年以上愛用しているマニフレックスのマットレスも日本から運んで、睡眠にも気を配りました。

舘田　睡眠は大切ですよね。体を酷使するスポーツ選手は睡眠でリカバリーしないとパフォーマンスに影響がでます。体に合わない寝具を使っていると安眠できない。でも、マニフレックスなら安心ですね。新シーズンも怪我なく活躍することを期待しています。

澤村　ありがとうございます。昨シーズン、リーグチャンピオンシップで負けたことで、逆にワールドシリーズに行ってみたい気持ちが強くなったので、次は世界最高峰の舞台を目指したいですね。■

magniflex

世界で初めてのウイルス対策寝具

ウイルスは、マスクや洋服などの繊維の表面では約2日間生き残ると言われている。当然、寝具でも同じだ。そこでマニフレックスでは寝具に、繊維製品イノベーションの世界的リーダー、スイスのハイキュ社が開発した抗ウイルス加工「ハイキュ ヴィロブロック」を採用した。この最新テクノロジーは、インフルエンザやコロナなどのウイルスを吸着して破壊、わずか30分で99・99％減少させる効果があることがオーストラリアのピーター・ドハーティー研究所によって科学的に証明されている。

感染症対策の専門家である舘田教授も認める、「マニフレックス×ハイキュ ヴィロブロック」シリーズはマットレスの他、トッパーやシーツ、枕カバーもラインナップ。ウイルス対策としてぜひとも活用したい寝具だ。

マニフレックス×ハイキュ ヴィロブロック
VIROBLOCKマットレス
(S) W100×D195×H21cm 165,000円（税込）～

お問い合わせ先：株式会社フラグスポート 〒107-0061 東京都港区北青山3-5-5　マニフレックス　検索